

## 世界中の人たちにリサイクルを



© 鹿児島県ぐりぶー・さくら

私の住む大崎町は、令和四年度分リサイクル率で、15回目の日本一に輝きました。「燃やせばごみ、分ければ資源」を合言葉に、町民が資源ごみを27品目に分けています。例えば、紙類では、①段ボールや②新聞紙・ちらし③雑誌、雑古紙、④コピー用紙、⑤シュレッター紙、⑥紙パック、⑦紙箱・包装紙、⑧その他の紙製容器、袋と資源の再利用を考えて、8種類に分けています。再生業者からリサイクルの質が高いというAランクの評価を頂いているのが町の誇りです。

私の家でも分別を行っています。よごれたプラスチックは、いつも水で洗って乾かしています。どのごみか分からない時、大崎町のごみ分別アプリで家族と調べるクイズのようで楽しいです。月に一度の資源ごみの日は、家族全員で収集所へ運びます。調べてもわからず困った時は、地域の方に聞くと、だれかが、やさしく教えてくれます。

また、私の家では料理をしたときに出る生ごみをコンポストに入れ、肥料に変えて野菜を育てています。そのおかげで野菜が元気に育ちます。農薬を使わないので、きゅうりやトマトはサラダにすると、とても新鮮でおいしいです。しかも、安全な食材というだけでなく、じゅんかんされて環境にやさしいです。また、お風呂のお湯は暖かい晴れている日は、太陽の力を借りて、

屋根で貯めた天日を使います。ガスや電気を使わずに自然の力で温かくした  
お風呂だと思うと、心も体も温められて気持ちがよいです。

「地球沸騰の時代だ。」と国連事務総長が言いました。それを止めることが  
できるのは、私たちしかいません。50年後、100年後、その先も、地球に自  
然環境が豊かで、動物も人間も健康に過ごせるためには、地球にやさしい生  
活に努めなければなりません。だから、私は、これからもリサイクルを続け  
ていきたいです。さらに世界中の人たちに、リサイクル活動やその大切さを  
伝えていきたいです。

大崎町立持留小学校 5年 柳原 依菜

